

6. 事業内容

当初計画では3年次は、1年次、2年次訓練修了生らを対象とした「プロダクション・ユニット」の結成およびプロダクション・ユニットにおけるより実践的製作、販売の訓練を予定していた。

しかしながら、50名の訓練生募集枠に1年次は150名、2年次は600名もの予想を大きく上回る応募があり、次年度も新規訓練生の募集を切望する声が現地で大きい。加えて、中国系大手縫製企業がルワンダへ本年度より本格進出、稼働を開始し、1、2年次修了生らが大きく就職の機会を得られる模様となってきた。海外と取引のあるルワンダ縫製工場も、工業用ミシンが使え、製図（パターン）製作のできる人材を求め始めており、即戦力として使える人材の育成が急務となっており、流れに即したより柔軟な訓練を行う必要が出てきた。

上記の状況の変化を受け、3年次は、若干名を対象に新入生訓練を行う（半日）。残り半日は、修了生たちが作品作りや技術研鑽を集まって行うことができるプロダクション・ユニットにて、1年次、2年次訓練修了生の中から希望者に、日本人および現地洋裁専門家が共同で製図指導を含めた更なる技術向上訓練を重点的に行う。

プロダクション・ユニットとは、訓練コースの一部という位置づけで、1年目、2年目修了生で既にある程度の基礎力を持つ訓練生にさらなる高度な技術指導を行う上級コースである。本事業終了後は、修了生らが組合を形成することでプロダクション・ユニット活動も引き継ぎ、実際の販売製品を製作し、原材料調達等は組合が調達する資金により独立的に行っていく予定である。

3年次新入生訓練は、1年次、2年次で育成した現地洋裁専門家が主導する。これは事業終了後、ガチュリロ職業訓練センターと現地洋裁専門家が協力して持続的に訓練を行っていくことも見据えた演習の場も意味する。

事業期間については当初2015年7月開始予定であったが、プロダクション・ユニットでの更なる技術研鑽を希望している2年次訓練生は2015年6月に訓練終了後、ルワンダ教育省、職業開発庁主導により、1-2ヶ月の産業研修参加予定のため、同研修終了後より3年次を本格開始するという意味で、1ヶ月遅らせた2015年8月を本事業開始月とする。

■第3年次

(1) 高度な日本の洋裁技術習得訓練

- ・工業用電動ミシンによる洋裁技術訓練を実施する。
- ・日本全国から寄贈された着物を訓練教材として使用する。
- ・日本人洋裁専門家が補佐し、現地洋裁専門家が訓練を主導する。

(2) 現地洋裁専門家への TOT: Training of Trainer

技術力定着を目指し、2年次より継続して日本人洋裁専門家による現地洋裁専門家への TOT を実施する。

(3) ビジネス強化ワークショップ

新規訓練生に対して、洋裁技術実習に加え、実際の収入、雇用創出強化のため、職業開発庁協力のもと、ガチュリロ職業訓練センターおよびルワンダ協同組合機構より派遣される講師による以下講習を実施する。

- ①市場調査・マーケティング講習 ②起業家講習

	③プロダクション・ユニット講習 ④組合設立講習 (4)プロダクション・ユニット結成 プロダクション・ユニットとは、1 年次、2 年次訓練修了生の中から希望者に、製図指導を含めた更なる技術向上訓練を重点的に行う場とし、訓練修了後も希望修了生たちが集まって、製作を継続できる場を言う。 (5)made in Rwanda 製品の製作・販売 ルワンダ国内市場および日本市場をターゲットとした、made in Rwanda 製品の開発、製作指導を行う。made in Rwanda 製品とは、基本的に、ルワンダ国内で入手可能な材料を使って、ルワンダで開発、製作する製品のことを言う。 (6)1 年次・2 年次訓練修了生のフォローアップ プロダクション・ユニットは、1 年目、2 年目訓練修了生のさらなる技術研鑽の場となり、修了生の中から希望者を受け入れる。中にはプロダクション・ユニットには参加せず、自ら開業、就職する者もいることが予想されるため、その後の状況を確認し、必要に応じて適切なアドバイス・協力を行っていく。 (7)品質評価および販売会議 開発した made in Rwanda 製品をガチュリロ職業訓練センター責任者である校長と評価し、販売戦略を立てていく。また同時に持続発展性についても協議し、事業終了後の着実な自立発展性の確保を目指す。 (8)洋裁指導責任者特別授業 本最終フェーズでは、フェーズ 1、2 修了生およびフェーズ 3 訓練生、現地洋裁スタッフを対象に、洋裁指導 50 年以上の経験を持つ、洋裁指導責任者の中島茂代および洋裁専門家小玉昌代による特別授業を行う。 (9)製作披露発表会 made in Rwanda 製品披露の場として、修了式兼ファッションショーという形で製作披露発表会を行う。日本からは本事業統括および洋裁指導責任者が参加し、現地政府関係者、関係機関代表らを招待する。日本—ルワンダ両国の絆を深めつつ、最終的にどのくらいのレベルの洋服が制作できるようになったか、成果を直接確認・共有することで、事業終了後も本訓練が継続してガチュリロ職業センターで実施されることがルワンダの洋裁技術底上げになることを、同職業センター校長から発表する機会とする。
--	--

7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など	①これまでの事業における成果（実施した事業内容とその具体的成果） (1) 高度な日本の洋裁技術習得訓練の実施 ・ 工業用電動ミシンによる洋裁技術訓練を実施した。 ・ 第2年次は50名の訓練生募集枠に600名の応募があり、午前、午後のコースに分かれて訓練を実施。1名につき1ヶ月平均64時間の実習で、工業用電動ミシンに触れたこともなかった訓練生らが、数か月でミシンを自在に扱うまでの成長をみせた。 ・ 日本全国から寄贈された正絹の着物を訓練教材として使用した。扱いの難しい繊細な正絹の生地は、裁断、縫製、アイロンに至るまで細かい配慮が要求されるため、高度な技術力の習得が可能となった。 ・ 現地の伝統的な生地「ギテンゲ」を訓練に使用。より現地市場で求められる製品の開発、製作が可能となった。 ・ 日本人現地事業担当兼洋裁専門家および現地洋裁専門家協同により、英語および現地語のキニアルワンダ語による訓練を実施。訓練生は訓練内容を完全に理解し、着実な洋裁技術の習得に繋がった。 (2) 現地洋裁専門家へのTOT: Training of Trainer 現地洋裁専門家は日本人洋裁専門家補佐として訓練に従事しており、1ヶ月平均160時間の洋裁実習および洋裁理論面の強化により、洋裁技術力が飛躍的に向上した。 (3) 適切なモニタリング・評価の実施 訓練開始後2ヶ月ごとにカウンターパートであるガチュリロ職業訓練センター校長とミーティングを実施。進捗状況、特に実施スピードと作品品質において高い評価を受けた。 (4) 洋裁テキストブックの製作 1、2年次ともに三ヶ国語（英語・キニアルワンダ語・日本語）併記の洋裁テキストブック作成し、配布。訓練生や修了生らが一人で復習し学ぶことが可能となった。 (5) その他派生効果 本訓練を経て、訓練生らは仲間を得られたのみならず、優秀な訓練修了生を洋裁アシスタントとしてフェーズ2で雇用したことで、これまで抜け出すことができなかった貧しい生活を大きく改善するきっかけとなった。学校に通わずすることのできなかった4人の子供全員の就学が可能になったり、効果はその家族にも及んでいる。 また、1、2年次各事業終了後、ルワンダ教育省、職業開発庁、ガチュリロ職業訓練センターの先導で、ルワンダ国内大手縫製工場での産業研修の機会が修了生全員に与えられ、就職への追い風となっている。現時点での1年次修了生の就職状況は以下の通りである。 < 1年次訓練修了生の進路状況：48名 > ・ リボン・京都洋裁アシスタントとして2年次に雇用：8名 ・ インド系大手縫製工場就職：6名 ・ ルワンダ系大手縫製工場就職：2名 ・ 中国系大手縫製工場就職：4名 ・ 自宅で縫製およびその他仕事との兼業：4名 ・ その他の仕事およびリボン・京都からの臨時仕事：5名 ・ スーダンで洋裁教員：1名
--------------------------------	--

	・ 妊娠、子育て、その他仕事：13名 ・ 本人が病氣療養中あるいは家族が病氣のため看病中：3名 ・ 大学進学：2名 <2年次訓練修了生の進路状況：50名> 訓練修了生全員がルワンダ国内大手縫製工場での産業研修へ参加中。 ②これまでの事業を通じての課題・問題点 1年次、2年次ともに全訓練生の家庭訪問を行ったところ、訓練生の7割以上が1994年のジェノサイドで家族を殺されて孤児になっていた、片親や兄弟姉妹など家族の誰かを失っており、当時の影響が未だに貧困と言う形で尾を引いていることが分かった。 また、たとえ家族が揃っていても家族も仕事に就けない、大学を卒業して学位を持っていても就職先がないなど、統計数字に表れている失業率よりも、実際の状況は遥かに厳しく、一般の人々の生活状況は予想以上に苦しい状況にあることが見えてきた。これは人々が安定した生活を営むための産業がルワンダには極めて少ないという事情もある。 当初の予測を超えて、高度な洋裁技術を学びたいという現地の声が非常に高く、50名の訓練生募集枠に1年次は150名、2年次は600名の応募があり、現在事業を実施しているガチュリロ職業訓練センターにも3年次の募集開始はいつかと問い合わせが殺到している。 これはルワンダの現在の洋裁訓練や縫製産業の水準がまだグローバルで通用するレベルに達しておらず、高度な洋裁技術を職業訓練として教えることが出来るのは現在ルワンダ全土で当会のみということが背景にある。 ③上記②に対する今後の対応策 予測を上回る訓練希望の声に対し、当初予定では3年次はプロダクション・ユニットの設立に特化させる予定であったが、プロダクション・ユニット設立と並行して、若干名を対象に新入生訓練も3年次でも行うことで対応する。 また事業を実施しているガチュリロ職業訓練センターとのさらなる連携強化に努め、訓練終了時、ルワンダ教育省、職業開発庁、ガチュリロ職業訓練センターにより修了生らに提供される産業研修先企業数をさらに増やすことで、修了生らの着実な就職先確保に動く。 最終的に1年目、2年目、3年目訓練修了生の80%以上が、ルワンダの縫製工場や洋裁関係企業などに就職する、自宅で開業して洋裁の仕事を開始する、あるいはプロダクション・ユニットでの活動の結果収入を得るといいうずれかの方法により、着実な収入と雇用機会を得ることを目指す。
8. 期待される成果と成果を測る指標	期待される成果 ■第3年次 成果1：高度な洋裁技術を習得した人材が育成される 高度な洋裁技術とは、日本式の製図（パターン）を使用し、柄合わせがきちんと出来、工業用電動ミシンで正確に縫製ができる技術をいう。 成果2：高度な洋裁技術を習得した現地洋裁専門家が育成される 成果3：made in Rwanda 製品が開発される 成果4：訓練修了生の雇用と収入創出へと繋がる

成果を測る指標

■第3年次

指標 1-1a: 訓練生の 80% が訓練を修了する (15 名 (予定) $\times$ 80% = 12 名)
 ※訓練を最後まで完了したものを修了とする。家庭の事情等で訓練を継続出来なくなる生徒を考慮し 80% と設定。

指標 1-1b: 訓練終了後、半年以内に修了生の 80% (12 名 (見込) $\times$ 80% = 10 名) が就職あるいは自宅で開業するなど就労あるいは収入の機会を得ている

※本訓練終了後、職業開発庁やガチュリロ職業訓練センターによる 2 か月間の産業研修参加期間を考慮し、目標を半年以内とした。

指標 1-2: 洋裁技能レベル 5 段階の 3 以上を修了生 80% 以上 (12 名 (見込) $\times$ 80% = 10 名) が達成する

(洋裁技能レベル基準)

レベル 5: 製図に寸分たがわず縫い上げることができる。柄合わせがきちんと出来ており、仕上がりがほぼ完璧である。

レベル 4: 指示通りには縫製ができるが、細部に渡る配慮が足りないために仕上がりは完璧ではない。

レベル 3: ある程度指示通りに縫い上げることができる。

レベル 2: 指示通りに縫製ができず、ミスの多い状態で作品が仕上がってくる。

レベル 1: 縫い上げるまでに生地を傷付けてしまう等、ほぼ修復不可能な状態で縫い上がってくる。

※上記レベルは、各作品評価の平均、および最終アイテムの作品評価を基に個人の洋裁技能レベルを算出。縫製者として持つべきレベル 3 以上を基準とした。訓練生はそれぞれの資質、能力が異なり、レベル 3 を達成するにはさらに時間を要する可能性の訓練生もいるため、80% 以上の達成とした。

指標 2: 洋裁技能レベル 5 同等の現地洋裁専門家が育成される

指標 3-1: 新規開発 made in Rwanda アイテムが 2 アイテム以上

※カリキュラムの期間上、製作可能な 2 アイテムとした。

指標 3-2: 開発製品の評価が 5 段階評価レベルの 4 以上

(評価レベル基準)

レベル 5: 品質、デザイン上、海外 (先進国) 市場で流通できる。

レベル 4: 品質、デザイン上、ルワンダ中流階級以上をターゲットに、ルワンダ市場で流通できる。

レベル 3: デザイン面あるいは品質面で、再考慮の必要があるもの。

レベル 2: デザイン面および品質両面で、再考慮の必要があるもの。

レベル 1: ルワンダローカルマーケットで現在流通している商品

指標 4: 訓練修了生の 80% 以上が雇用の機会を得て (プロダクション・ユニットでの活動も含む)、実際の収入創出へと繋がる。